

総務環境委員会(9月5日) 田口一登議員

地域委員会の検証でアンケート 関心も高まらず、取り組みたくもない

9月5日に総務環境委員会が行われ、地域委員会に関するアンケート結果などについて審議が行われました。

地域予算はどう生かされたのか

地域予算が地域にどう貢献したか、などについて、8つの地域委員会の47事業で評価票が作成され、地元の評価と合わせ、市の評価、外部委員による評価が公表されました。さらに、モデル地域8000人へのアンケートとその他の市民への2000人アンケートの結果が示されました。

こんな制度を続けるのか

アンケートの回答で、「地域委員会の実施により、地域活動や住民自治に対する関心が高まったと思うか」という問いに、「(どちらかといえば)高まったと思う」が、「変わらないと思う」を下回っています。また、モデル地域以外では、「地域委員会に組みたいと思いますか」との問いに、「(どちらかといえば)組みたくない」が、「(どちらかといえば)組みたい」を上回りました。

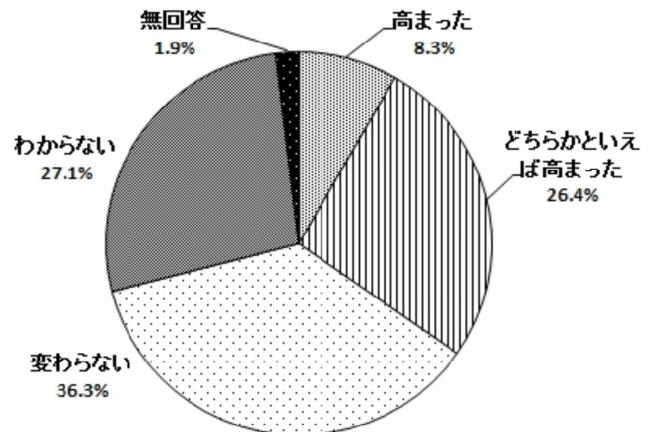
市総務局の分析でも「住民の期待に応えるほどの効果を感じられなかった」「新しい制度であり、実際に取り組むには難しいと判断された」ような制度を続けていく必要があるのでしょうか。

不適切な予算の使い方も露見

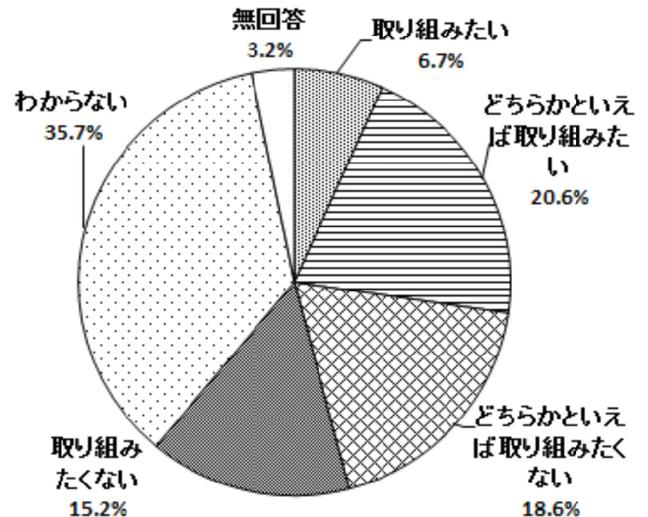
田代学区で実施された「歴史ふれあい音楽会」を自民党の市議が取り上げました。86万円使った音楽会の参加者がわずか70人。会場は日泰寺を予定していたのに直前に城山八幡宮に変更。千種区長や出演者は、神社の指導で神事に参加することが条件だった。主催者の一人は地域委員。地域委員会では内容が決まらないまま、「予算は100万円を上限で」と正副委員長に一任。総務局も「一任は好ましくなかった。正していく点がある。不適切な点があった」と認めました。

田口議員は「イベントを通じて、触れ合うことは大事で、自分の自治会でも5万円の予算だが、出演料を安くし、バザーで稼ぐなど、知恵を出し合い、いろいろな人の協力を頼んで協力し合うことなどが重要」と指摘しました。

地域委員会で地域活動に関心が高まったか
(モデル地域8000人アンケート)



地域委員会に組みみたいか
(市民2000人アンケート)



市はもっと真摯な分析を

田口議員は「市の評価は甘い。地域予算事業としての評価がない。関係者との調整不足だけでいいのか。専門家は学区組織の中心でなかったのでは借りれなかったという評価だ。街路灯整備などは区連協でもやっている。担い手も同じで、地域委員会の事業だからという突込みがない」と批判。当局は「もっと検証すべきだった。そもそも地域でもできたというのはその通り」と答えました。